

日光市（首都圏ブロック）

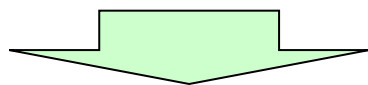
【計画期間 23年3月～28年3月】

江戸時代～：日光街道、例幣使街道、西会津街道の結節点の宿場町として発展
 現在：日光、鬼怒川といった観光エリアの中心として、市の公共公益サービス、
 商業・生活を支える中心核として位置づけ

○平成14年までに郊外部において多数の大規模小売店舗が立地。

また、中心市街地に立地する大規模小売店舗の閉店により中心市街地の商業環境が疲弊。

○歴史関連資源はあるものの十分に活かされていない。



○歩行者通行量（平日・休日平均）

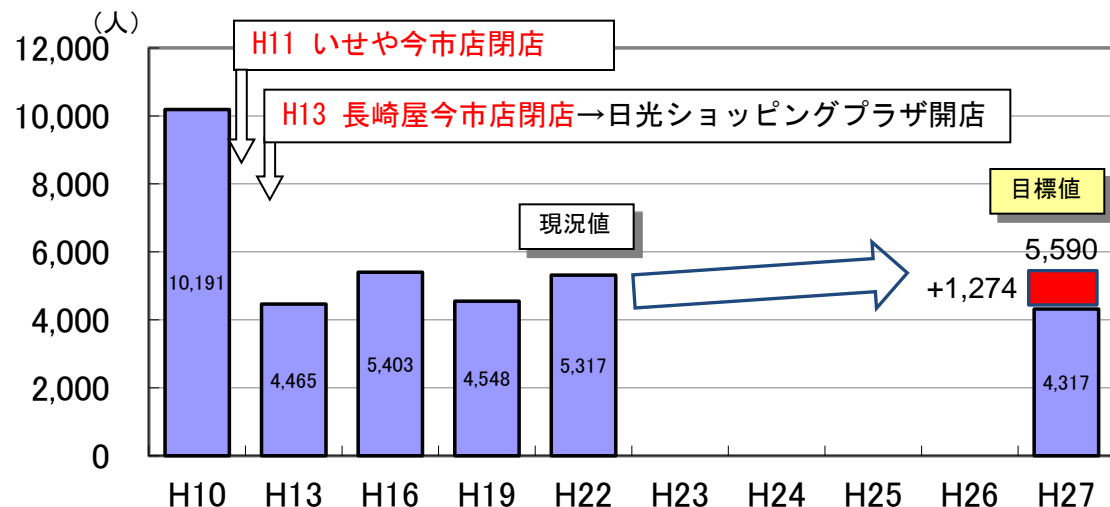
H10:10,191人 → H22: 5,317人(▲48%)

○小売年間販売額

H14:3,907百万円 → H21:2,896百万円
 (▲26%)

目 標	指 標	現況値	目標値 (H27)
歴史・自然・文化資源を活かしたまちづくりによる交流人口増	歩行者通行量 (平日・休日の平均値)	5,317人/日 (H22)	5,590人/日
誰もが安心して暮らすための生活サービス・生活環境の享受と商業の活性化	小売年間販売額	2,896百万円 (H21)	3,310百万円

【歩行者通行量（平日休日平均・16地点）の動向と数値目標】



■ 市民の交流の場、街なか観光の場を整備することにより、交流の街としての中心市街地を目指す。

⇒主要事業：①小倉町周辺整備事業（観光情報館、屋台展示施設、多目的広場、多目的ホール、たまも小路等）
 ②散策ルートマップ作成・中心市街地散策ツアー 等

■ 市民のニーズに応じた生活支援サービス等の提供・商業の活性化を図る。

⇒主要事業：③小倉町周辺整備事業（日光市場）、④日光市地域子育て支援託児事業 等

日光市中心市街地活性化基本計画の事業概要

歴史・自然・文化資源を活かしたまちづくりによる交流人口増

誰もが安心して暮らすための生活サービス・生活環境の享受と商業の活性化

○小倉町周辺整備事業(①)

交流の拠点として、中心市街地の中心に多目的広場、多目的ホール、日光市全域についての観光情報館、屋台展示施設、船村徹記念館、(仮)日本のこころのうたミュージアム、駐車場、東裏堀用水等を整備する。

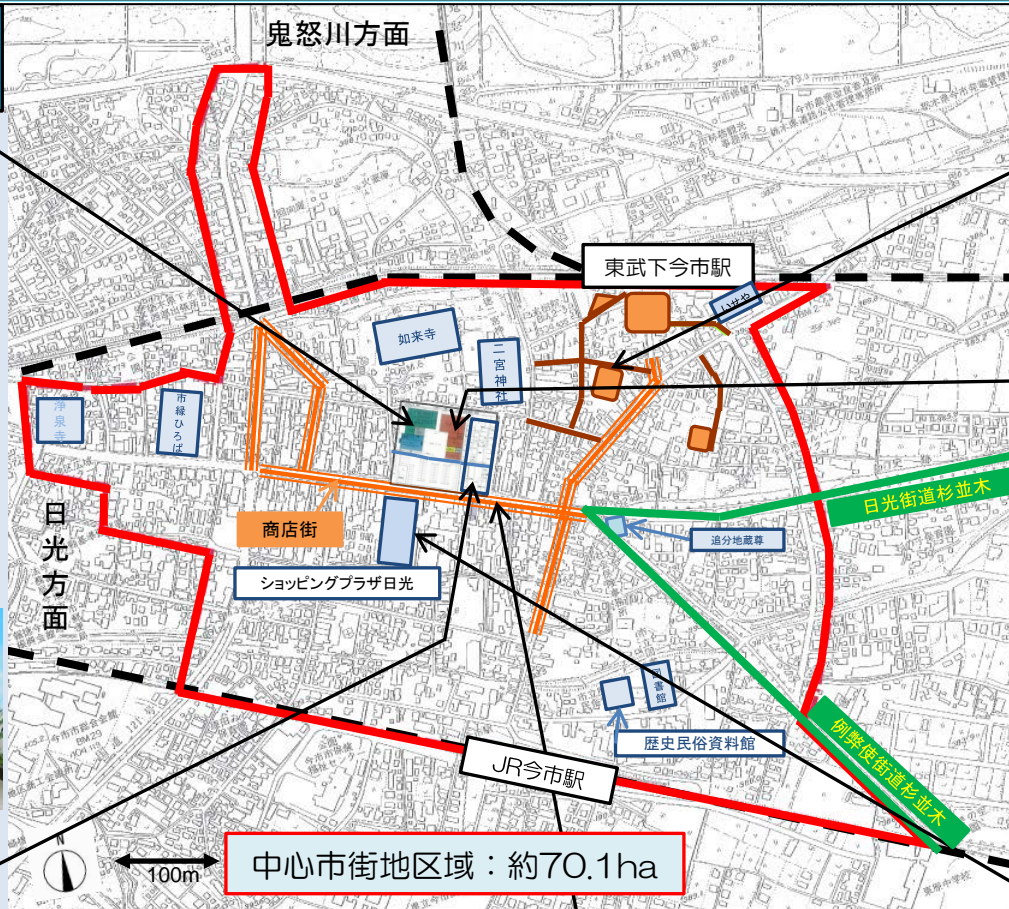
整備した広場やホールにおいて年間を通してイベントを開催することによりにぎわいを創出する。



小倉町周辺整備事業イメージ

○小倉町周辺整備事業(①) (たまも小路)

古民家及び路地裏に拘りを持つ既存店舗を中心に、空き店舗を利用し、昭和20~30年代をイメージした裏通りを再現し、中心市街地の回遊・集客拠点を整備し、にぎわいを創出する。



○駅間東武下今市地区整備

東武下今市駅の駅前広場、駐車場、駐輪場、防災広場、まちなか広場、生活道路等の整備により、当該地区の生活利便性を確保する。

○小倉町周辺整備事業(③)

地産地消をテーマに青果等を中心とした地場産品等を販売する商業施設「日光市場」を整備し、日常の買物を誘引する。

○地域子育て支援託児事業(④)

空き店舗や公共施設の空きスペースを活用して、授乳やオムツ換え等の子育てニーズに応えた拠点を整備する。

○散策ルートマップ作成・散策ツアー(②)

中心市街地内の歴史資源等を巡る散策ルートマップの作成、散策ツアーの実施により、街なかへの回遊を促進する。

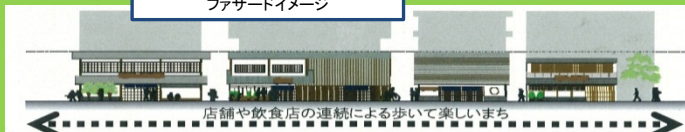
○観光案内板・サイン整備事業

散策ルートや商店街等に観光案内板・サインを整備する。

○商店街景観形成整備事業

日光街道沿いに立地する商店街の既存アーケードの撤去と景観形成ガイドラインに基づくファサード及び街路灯を整備する。

景観形成ガイドラインに基づくファサードイメージ



○ショッピングプラザ日光ビルの再活用

ショッピングプラザ日光ビルの空きスペースにまちづくり担当部署が入居、行政サービスカウンターの拡大により行政サービスのまた、まちづくり会社「(株)オアシス今市」等による活用を図る。